

鷄肉情勢

項目

内容

1. 国内

(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和6年9月末実施)によると、8月の推計実績は処理羽数58,796千羽(前年比97.6%)、処理重量172.3千トン(同98.2%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は2.5%の下方修正となり、処理重量は3.3%下方修正された。台風10号による工場休業および、夏場の増体が良くなかったことが影響し、処理羽数・処理重量ともに前年から大きく下回ったと考える。

(2) 9月の計画処理羽数・処理重量ともに前年を下回る予想となっており、前月予想から処理重量ベースで下方修正された(▲0.9%)。9月に入り寒暖差が大きくなり、また熱死事故が発生した産地もあったようだ。また、農場間での生鳥体重のバラツキからイールダスなどの処理機械の調整が追い付かず、ムネ肉・ササミの歩留まりの低下が発生している処理場もあるようだ。

10月については、土・日・祝日が前年から1日減(今年9日・昨年10日)したこともあり、処理羽数・処理重量ともに前年を上回る見通しだ。しかし、宮崎大手処理場の移転に伴う休業もあることや、夏場の猛暑により種鶏の成績に影響が出ていることから、数値は多少変動すると考える。工場の人員不足については外国人技能実習生が都市部への就業に集中していることに加え、来日が遅れている産地が一部あるようだ。また、従業員の高齢化もあり人員確保が難しくなっているとの声も聞かれる。副産品(小肉・剣状軟骨など)や機械で加工することが難しい手羽中半割といった加工品の調整を行っている産地もあるようだ。この傾向は暫く続く見通しだ。

2. 輸入

(1) 財務省9月27日公表の貿易統計によると、令和6年8月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から+4.9千トンの56.7千トン、国別ではブラジルが前月+6.2千トンの41.8千トン、タイが▲1.5千トンの14.0千トンとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、輸入量は9月が56.9千トン(前年比117.6%)、10月は53.1千トン(同111.1%)となっている。7月のブラジルの船積みが47.0千トン程度であることから増加する見通しだ。直近では為替が不安定であるものの、国産含めた国内需要が堅調であることから輸入量が増加しているようだ。食料品全般の値上がりや消費者の生活防衛意識の高まりなどから、比較的安価な輸入鶏肉の需要が増加することを見越し、積極的に在庫を抑えている業者もあるようだ。ただし、不透明な為替動向および南米における鳥インフルエンザ発生リスクなどにも注視する必要があるようだ。

(2) 鶏肉調整品の輸入量は、前月から▲7.7千トンの39.8千トンで国別では中国が▲4.5千トン、タイが▲3.2千トンとなった。前年同月実績40.4千トンとの差は▲0.6千トンとなり、前月比・前年比ともに下回る結果となった。国内の働き手不足やコロナ禍が明けた影響による外食筋の回復、共働き世帯の増加に伴う中食・総菜向け等の引き合いも継続している。冷食関係でも輸入鶏肉を使用したメニューが増えており、鶏肉調整品自体の需要も高い水準を維持している。しかし、コスト高・為替(円安)もあるため輸入量が今後急増することは考えにくい。

(3) 財務省が9月27日に公表した貿易統計によると、8月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より▲3.2%となった。解体品の国別価格は、ブラジル産の輸入価格が306円/kg(前月比▲7円)、タイ産が432円/kg(同▲21円)となっている(国別平均価格)。前年同月から価格が下落したのは為替が円高に推移したためではないだろうか。鶏肉調整品は中国が前年同月より4.3%上昇、タイが3.6%上昇した。

1. 家計消費

(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和6年8月の生鮮肉消費(購入)は数量4,009g(前年比99.4%)、金額6,601円(同102.5%)と、重量は前年を下回り、金額は上回った。今年8月は土・日・祝日が10日間で昨年よりも1日多かったものの、台風10号接近やコロナ禍が明けたことによる外出機会の増加などから今年8月は購入機会が減少したと考える。鶏肉は数量1,399g(同102.6%)・金額1,427円(同101.1%)・単価102円/100g(前年同月▲2円)と、数量・金額は前年を上回ったものの、単価は前年を下回った。調理食品が金額13,734円(同104.2%)、外食が18,914円(同112.9%)となっている。畜産の購入数量は牛肉・豚肉が前年を下回り、鶏肉が前年を上回る結果となった。輸入品含めた牛肉・豚肉の高騰が続いたことから安価な鶏肉へのシフトが進んでいると推察される。調理食品は共働き世帯の増加に伴う需要は底堅いようだ。外食においては、ほぼコロナ禍前の水準程度まで回復したものの、統計外となるインバウンドによる集客もあることからエリア・業態によって濃淡があるようだ。

2. 量販・卸

(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和6年8月の食品売上高は全店ベースで前年比105.1%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同104.5%、既存店ベースは同103.7%となった。また、畜産部門の売上高は約1,249億円で全店ベース同102.7%、既存店ベース同101.7%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、「国産・輸入ともに相場高傾向が続き、仕入値が過去最高を記録したという店舗も。夏休み、お盆時期であり牛肉の販売数量がやや回復傾向となった。豚肉の価格が再び上昇しており、不調となった店舗が多い。比較的值ごろ感のある鶏肉への需要シフト傾向は続いており、ひき肉や小間切れなどの低価格商品もよく動いたとのコメントが多い。加工肉は全般的に高値傾向にあり、苦戦が続いている。台風に備えた備蓄需要が発生したという地域もみられた。」とコメントがあった。安価な商品に需要が集中している傾向は変わらないようだ。

3. 業務・加工筋

(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和6年8月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比93.3%の4.3千トンとなった。うち国内品は同96.8%の3.3千トンと前年を下回り、輸入品についても同83.1%の1.0千トンと前年を下回った。

1. 令和6年8月

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の8月末時点推定期末在庫では国産35.1千トン(前年比109.7%・前月差▲0.4千トン)、輸入品137.9千トン(同103.5%・同+4.3千トン)と合計で173.0千トン(同104.7%・同+3.9千トン)となった。

2. 見通し

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、8月の出回り量は国産130.4千トン(前年比98.6%・前月差▲10.6千トン)、輸入品52.4千トン(同100.2%・同+1.1千トン)と合計で182.8千トン(同99.0%・同+▲9.4千トン)となった。前月からは国産の出回り量が減少し、輸入品が増加している。国産の減少については、土・日・祝日が前月よりも1日多かったが、豪雨・酷暑などの気候や、前述の通り国産品の生産量が若干落ち込んだことも影響していると考えられる。8月以降の在庫については国内生産が若干落ち込み、輸入量は増加傾向、出回り量は月により濃淡はあるものの増加傾向であるため、一時的に在庫が増加する可能性はあるものの、消費者の節約志向による鶏肉への需要シフトが続く気配が強いため、暫くは現在の水準を推移していくのではないだろうか。

1. 令和6年9月動向

(1) 令和6年9月の月平均相場は、モモ肉627円/kg(前月差+14円)・ムネ肉368円/kg(同+9円)正肉合計で995円/2kgと前月を23円上回り、前年同月を25円下回った。モモ肉相場は月初614円、月末は631円となり(昨年は月初662円、月末642円)、前年の相場を下回った。生産においては、前述の通り寒暖差による熱死事故や歩留まり低下などにより不調だった。販売についてはモモ肉が年末用の確保があるものの生鮮で売り切る動きが強く、余剰在庫を持たないように販促をかけているようだ。ムネ肉については輸入食品全般の価格高騰等から加工筋向けの引き合いが強まっており、量販店での動きも活発化している。副品目については量販店における店頭価格が他畜種と比較すると安価なこともあり動きは良いようだ。輸入鶏肉については先々の需要増・コスト高を見越して在庫確保を積極的に行う業者がいるため安価な商品が殆ど出回っていないと聞かれる。内臓関係については、夏場特有の崩れによる商品化率悪化により流通量が減っている。

2. 見通し

(1) 9月の生産量は前述にもあるように処理重量ベースで前年を下回る計画であり熱死事故や処理工場での歩留まり低下が原因だと考える。10月については生産・処理動向調査では処理羽数は前年並み、増体の向上による処理重量の増加が見込まれるものの、宮崎大手処理場の移転に伴う休業や、台風10号の振替稼働を一部産地で行うことなどから、集荷が難しい場面が発生する可能性は否めない。販売については家計調査を見ても牛肉→豚肉、豚肉→鶏肉への需要シフトは継続して進んでおり、消費者の生活防衛意識の高まりから安価な商品へ需要が集中することが予想される。輸入鶏肉については過去4ヶ月(5-8月)の出回り量に対して国内の在庫量が2.6-2.9ヶ月分あるが、前年もほぼ同水準であることから極端に増加している訳ではない。国内の堅調な需要から輸入量・在庫量ともに増加していると考え。10月のモモ肉相場は上げの月平均650円、ムネ肉相場は横ばいの月平均370円と予測する。例年通り年末に向けて鶏肉相場は上昇傾向に推移していくと考える。

(2) 10月10日現時点では、養鶏場・家さん農場における鳥インフルエンザは発生していない。2023年は11月25日に佐賀県の採卵鶏農場で発生、2022年は10月28日に岡山県の採卵鶏農場で発生、2021年は11月10日に秋田県の採卵鶏農場で発生した。需給に影響する可能性があるため注視したい。また、各シーズンの発生状況は、2023年11事例、2022年84事例、2021年25事例、2020年52事例となっている。2023年は関東から四国・九州にかけて発生したが、2022年については北海道から沖縄までの26道県で発生しており、農林水産省の集計では肉用鶏・採卵鶏・アヒルなどの全種で1,771万羽が殺処分となっている。

生産状況

単位:千羽、千トン、%

	R5年累計(推計)		R6年8月推計実績		R6年9月計画		R6年10月計画		R6年11月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	784,087	101.2%	68,372	100.2%	65,301	96.1%	71,074	99.9%	63,787	99.9%
処理羽数	743,734	100.9%	58,796	97.6%	59,326	97.7%	63,757	100.4%	61,878	98.3%
処理重量	2,240.5	101.0%	172.3	98.2%	175.3	99.3%	194.1	101.6%	189.6	99.0%

※参考資料: ㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向

単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0
R6年4月	52.0	47.4	109.7	44.6	39.9	111.9	96.7	87.3	110.7	53.8	46.2
R6年5月	53.3	51.7	103.0	40.8	35.4	115.0	94.0	87.2	107.9	56.6	43.4
R6年6月	49.4	57.7	85.6	42.6	39.7	107.2	92.0	97.4	94.4	53.7	46.3
R6年7月	51.8	46.7	110.9	47.5	39.5	120.2	99.2	86.2	115.2	52.2	47.8
R6年8月	56.7	56.0	101.3	39.8	40.4	98.6	96.5	96.3	100.2	58.8	41.2

※参考資料: (独) 農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向

単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7
R5年平均	1,495	1,510	99.0	1,547	1,448	106.8
R6年4月	1,509	1,572	96.0	1,539	1,566	98.3
R6年5月	1,569	1,485	105.7	1,585	1,530	103.6
R6年6月	1,568	1,455	107.8	1,524	1,492	102.1
R6年7月	1,385	1,361	101.8	1,411	1,422	99.2
R6年8月	1,399	1,363	102.6	1,427	1,411	101.1

※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

相場(年別・暦年)

単位:円

	モモ肉	ムネ肉	計
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954
R4年	662	348	1,010
R5年	730	395	1,125

在庫状況(推定)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R6年4月	35.5	27.5	128.9	127.1	119.5	106.3	162.6	147.1	110.5
R6年5月	36.3	29.3	123.6	131.0	127.5	102.8	167.3	156.8	106.7
R6年6月	36.7	28.6	128.4	133.1	133.6	99.6	169.8	162.2	104.7
R6年7月	35.5	30.6	115.9	133.6	129.6	103.1	169.1	160.2	105.5
R6年8月	35.1	32.0	109.7	137.9	133.3	103.5	173.0	165.3	104.7

※参考資料: (独) 農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

出回り量(推定)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年累計	1,683.1	1,685.4	99.9	563.3	604.1	93.3	2,246.5	2,289.5	98.1
R5年累計	1,689.0	1,683.1	100.4	606.3	563.3	107.6	2,295.4	2,246.5	102.2
R6年4月	147.4	138.8	106.2	54.1	54.8	98.7	201.5	193.6	104.1
R6年5月	146.0	140.7	103.8	49.3	43.7	112.7	195.3	184.4	105.9
R6年6月	142.3	142.1	100.1	47.3	51.6	91.8	189.7	193.7	97.9
R6年7月	141.0	131.7	107.1	51.3	50.7	101.1	192.2	182.3	105.4
R6年8月	130.4	132.3	98.6	52.4	52.2	100.2	182.8	184.5	99.0

※参考資料: (独) 農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別)

単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年度平均	700	702	99.7	384	371	103.5	1,084	1,073	101.0
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9
R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4
R6年6月	619	745	83.1	354	405	87.4	973	1,150	84.6
R6年7月	613	709	86.5	355	398	89.2	968	1,107	87.4
R6年8月	613	674	90.9	359	383	93.7	972	1,057	92.0
R6年9月	627	646	97.1	368	374	98.4	995	1,020	97.5
R6年10月	(650)	649	100.2	(370)	369	100.3	(1020)	1,018	100.2
R6年11月	(660)	673	98.1	(380)	374	101.6	(1040)	1,047	99.3

※()は見通し